

1992(平成4)年6月11日 出石・内町 月券 林寺

勝林寺寺報

臨時号



永代経

ご案内

七月八日(夜8時)
九日(昼2時)

ご法話 和田山 藤井 雅峰先生

「永代経」とは、もともと永代祠堂経と言い、祖先の位牌をまつる祠堂(位牌堂)で、いつまでも供養のお経をあげもらうための法会をさを言い、そのための法礼(お布施)を祠堂錢と言いました。

もともと中国で始められたものが日本に伝えられ、おもに寺の維持運営の経済基盤をなす法要として重要視されてきました。いまも例えは施餓鬼供養などといふかたちで行われているのです。

浄土真宗では近代になってから初めて「永代経」をつとめるようになりましたが、真言で勤める「永代経」は、他の仏教宗派の勤めます。

この代あの世を越えてわたしのいのちの永遠の経(ストラ・よりどころ)に気づかせていただく集会、それを真宗では「永代経」と呼ぶのです。

もともと「お経」は、お釈迦さまのご説法。お釈迦様は一度も死んでしまったものに対してご説法なさいませんでした。生きて、悩み苦しんでいる者に、ここをよりどころにしつかり生きなさいと、ご説法くださったのです。

ですから、祖先のご命日などをご縁にして、お経をあげたりご法話に会つても、それは祖先供養のため、死んだ人のためではなくて、あくまでもこのわたしが聞かせていただかなければ、なんの意味もないことになります。

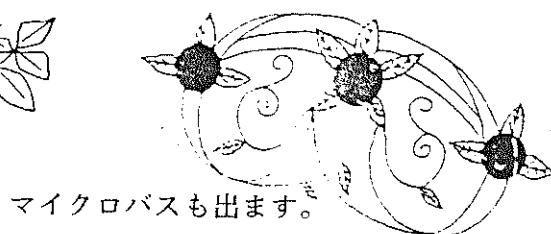
生きても死んでも

大丈夫な

帰命無量寿如来
南無阿弥陀仏の

およびごえのともに

おいわれを聞かせていただきましょう



お前いで

お参り

ください

(詳しくは7月の「勝林寺寺報」に)

会計
同
事務局

わたくしたち、去る二月二十三日の仏婦評議員会において推薦いただきました役員でございます。

会長	生田 良子(出合)
副会長	石坪みよ子(栗尾)
会員	永井ひろ子(矢根)
会員	中嶋綾子(坪口)
会員	斎藤昌子(小田)
会員	福富はるゑ(市場)
会員	亀井幸枝(出石)
会員	藤川貴恵(出石)

七月九日

勝林寺
仏教婦人会

総会

9/30 午前9時 受付
開会のことば
『真宗宗教』(献花献灯)

おつとめ
会長挨拶・住職祝辞

会務会計報告

閉会のことば

ご法話 住職 西池 哲俊様

右も左もわからぬまま、みなさんのおかげにすがり、まず聞法に励ませていた坊守様、歴代役員のみなさまの築き上げられたこの勝林寺仏婦の輝かしい伝統を、汚しては申し訳ありません。さしづめ今度の総会をなんとしても成功させたいと役員一同念じております。まず全会員のみなさま、ご出席いただき、ご教示賜りますよう、ご案内を兼ねてお願い申し上げます。

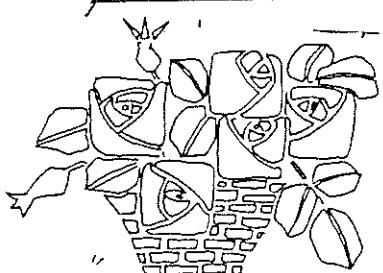
六月十二日

勝林寺仏教婦人会長 生田 良子

作品展示会

永代経・仏婦総会記念
7月8・9日

書道・絵画作品
工芸・手芸作品
詩歌・俳諧色紙
写真 など



7月7日午前中に搬入ください。

昨年、坊守さま、この作品展をご覧になり、それを最後にお亡くなりになりました。坊守さま追悼のこころで、この作品展を成功させたいと思います。
心をこめて皆様ご出品ください。



生田 良子

